



NICHIBAN



サステナビリティレポート2022



Sticking to your needs



ニチバン株式会社

ぴったり技術で明日をつくる

ニチバングループの強みである粘着技術を活かして、将来にわたって快適で健康な生活に貢献していくという企業姿勢を表現しています。



Contents

■ ニチバンについて

- P.3 ニチバンのあゆみと強み
- P.5 ニチバンの価値創造
- P.7 ニチバンのサステナビリティ

■ 事業・戦略

- P.13 トップメッセージ
- P.17 パフォーマンスハイライト
- P.19 セグメント情報
- P.21 [close up] 気候変動への対応
- P.22 [close up] ダイバーシティ戦略

■ マテリアリティへの取り組み

【環境】

- P.23 環境・社会課題の解決に貢献する製品開発／環境負荷の低減
- P.24 化学物質の適正な管理／気候変動・地球温暖化対策
- P.25 資源の枯渇への配慮／生物多様性保全

【社会】

- P.26 製品の品質向上と安全の確保／労働安全衛生と社員の健康への対応
- P.27 ダイバーシティ推進と人材育成／サプライチェーンマネジメントの強化
- P.28 地域・社会への貢献／医療への貢献

【ガバナンス】

- P.29 コーポレート・ガバナンス
- P.31 コンプライアンス
- P.32 リスクマネジメント／情報セキュリティ

【ビジネスイノベーション】

- P.33 イノベーション創出／グローバル市場へのスピーディな展開・拡大

■ P.34 会社情報／株式情報

編集方針 本報告書は、ニチバングループの活動の結果をご報告し、より多くの方々にニチバンの事業活動を知っていただくことを目的に発行しています。
報告対象組織 ニチバン株式会社/ニチバンプリント株式会社/ニチバンテクノ株式会社/ニチバンメディカル株式会社
報告対象期間 2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の活動を中心に、それ以前からの取り組みや直近の報告も含んでいます。
発行 2022年9月

ニチバンのあゆみと強み

100年のあゆみ

「歌橋製薬所」創業

東京南品川に「歌橋製薬所」を創業。硬膏・軟膏などの製造をスタート。この工場がニチバンの原点となる。



創業者 歌橋憲一

「セロテープ®」販売開始

検閲後の封筒を封かんするためのテープの調達先として、絆創膏製造で実績があった当社に打診される。



初期のパッケージデザイン

埼玉工場を設置、東京工場より移転

東京工場周辺の宅地化が進み、工場拡張・設備増設が困難となってきたため、同工場を埼玉県日高町（現日高市）に移転。



当時の埼玉工場

「たばねら™テープ」販売開始

当時、野菜の結束には藁や輪ゴムなどが使われており、「テープで結束することはできないか」との思いから開発。



「たばねら™ 2000V」「たばねら™ 300V」

救急絆創膏「ケアリーヴ™」販売開始

「高品質」をキーワードとした新製品の開発に着手。貼っていても違和感がなく、素肌に近い感触を実現。



初期のパッケージ

創業100周年

創業100周年に向け、2011年度から8年間の中長期経営計画【NB100】を策定・推進し、さまざまな事業を展開。

- 1918
- 1944
- 1948
- 1967
- 1972
- 1976
- 1978
- 1989
- 1997
- 2018

日絆工業株式会社に商号を変更

全国の絆創膏製造業者25社が歌橋製薬所を中心工場として統合。同年9月に「日絆工業株式会社」と商号を変更。



設立当時の製品群

安城工場を設置

「セロテープ®」などの需要が増大し、生産増強のために愛知県安城市に新工場を設置。



新設された安城工場

大鵬薬品 資本参加

オイルショックと東京工場移転に端を発する労使問題で経営不振に陥り、大鵬薬品の資本参加を受けて経営を再建。

「ロイヒつぼ膏™」販売開始

それまでは冷感タイプが中心だった鎮痛消炎貼付剤の市場に向けて、温感タイプに特化した小型丸形プラスターを発売。



「ロイヒつぼ膏™」初代パッケージ

メディカル安城工場を設置、大阪工場移転

医薬品生産拠点である大阪工場は周辺の住宅化が進み、工場運営が限界となり、安城事業所の敷地内に研究所と合わせ新工場を設置。



メディカル安城工場

積み上げてきたニチバンの強み

永年築いた製品ブランド

～「セロテープ®」「ナイスタック™」「ケアリーヴ™」「ロイヒ」シリーズ～

ニチバンはコア技術である「粘着」を原点として幅広い分野に製品を展開し、永い年数をかけてブランドを築いてきました。「セロテープ®」は1948年の発売、両面テープの「ナイスタック™」は1966年の発売以来、今でも多くのお客さまに使われ続けています。「セロテープ®」の主原料であるセロハン・粘着剤は植物由来の天然素材からつくられており、サステナブル社会に貢献する製品として今後も広めていきます。救急絆創膏の「ケアリーヴ™」は1997

年の発売です。高密度ウレタン不織布と独自に開発した粘着剤により、肌にぴったりフィットする貼り心地のよさという特長が受け入れられ、現在でも成長を続けています。鎮痛消炎剤の「ロイヒつぼ膏™」は1989年の発売です。温感タイプで効き目感の強さが特長で、慢性的な肩こりや腰痛に悩まれるお客さまから根強い支持をいただいています。近年は韓国・中国・台湾を中心にインバウンド需要を取り込み、メディア・SNSでも数多く取り上げられました。

粘着の技術をベースに差別化した製品を開発し、独自のポジションを確立

ニチバンのコアである粘着技術は、適切な粘着強度、耐候性、貼りやすさ・はがしやすさ、透湿性・低刺激性など、用途と目的によってさまざまな機能が求められます。ニチバンの製品は、永年培った技術をもとに、最適な粘着剤の設計、フィルム等の基材の選択と調整、塗工技術、剥離剤等の材料技術などを組み合わせることで製造されています。人々の快適な暮らしに貢献し続けるために、今後も高機能・高付加価値な製品を開発し、提供していきます。

生活必需品でありながらニッチな市場に幅広く展開し、顧客基盤とビジネスネットワークを獲得

粘着技術をもとに開発した製品を、コンシューマー（BtoC）分野ではOTC・ドラッグストア、文具・事務用品、スポーツ用品、家庭用雑貨などに、産業（BtoB）分野では医療施設、各種包装、建築・土木、食品・農業などに展開しています。ニチバンはそれらの業界に販売ネットワークを構築し、幅広い顧客基盤を獲得しています。また、原材料調達をはじめとするサプライチェーンについても、永年続く製品ブランドを支え続けるための信頼性の高いネットワークを築いています。

ニチバンの価値創造

私たちは「絆を大切に、ニチバングループにかかわるすべての人々の幸せの実現」を基本理念に掲げています。理念の実現に向けて、環境・社会課題を解決する価値を提供し続け、サステナブル社会への貢献を果たします。

サステナブル社会への貢献

ニチバングループの理念

創業の精神
和親協力・進取向上

基本理念

私たちは絆を大切に
ニチバングループにかかわる
すべての人々の幸せを実現します

企業姿勢

粘着の分野を原点として
新たな価値を創造する技術で
快適な生活に貢献し続けます

行動指針

- | | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|
| 社会
誠意をもって誰にでも
誇れる仕事をしよう | お客様
お客様にとっての
「良いもの」を届けよう | チャレンジ
失敗を恐れず
まずやってみよう | スピード
スピーディーに行動し
時代を先取りしよう | チームワーク
組織を超えて協力し
最後までやり遂げよう |
|--------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|

■ ニチバンのサステナビリティ P.7-12

経営基盤の確立

- 組織・マネジメント
- 研究開発・生産
- ガバナンス
- コンプライアンス
- 人財
- 環境
- 営業

確固たる 企業品質の 確立

ステークホルダー への価値提供

■ マテリアリティへの取り組み P.23-33

事業を通じた環境・社会への貢献

- ・主原料が自然由来の天然素材である「セロテープ®」による脱プラスチックの推進
- ・止血製品やドレッシング材による感染予防と医療への貢献
- ・環境負荷の低減と、医療をはじめとする社会課題の解決に重点を置いた研究開発により、新製品・新規事業を創出

■ セグメント情報

P.19-20

消費者	ヘルスケア／スポーツサポート／ 快適なオフィス作業／食品ロス削減
医療材	医療への貢献／感染予防／手技・処置提案
工業品	課題探索・提案による産業界への貢献
海外事業	グローバルな社会課題への貢献

当社の創業の精神「和親協力」には、「お互いに理解し、受け入れ、協力し合うこと」、「進取向上」には、「世界の時流を読み、新しいことにスピーディーに挑戦し、困難な時もあきらめずに最後までやり遂げて、世の中の人々の生活の向上に貢献すること」という意味が込められています。

創業の精神をもとに構成する「基本理念」「企業姿勢」「行動指

針」というニチバングループの理念を軸に、「企業を支える土台」となる経営基盤を確立し、理念からお客さまに届ける製品・サービスに至るまで、すべての階層においてニチバンという企業の品質を向上させます。その結果として、ニチバンの持続的な成長を実現するとともに、メディカルとテープの両事業を通じてステークホルダーに新たな価値を提供し、サステナブルな社会の構築に貢献します。

ニチバンのサステナビリティ

基本的な考え方

当社グループは、「私たちは絆を大切にニチバングループにかかわるすべての人々の幸せを実現します」という基本理念を掲げています。この理念の根底にあるのは、まずは社員が幸せを感じられる環境をつくり、その幸せをすべてのステークホルダーにつないでいく、という考えです。当社のサステナビリティは、創業から脈々と受け継がれてきた理念の実現を基盤としています。

推進体制

ニチバンは、ステークホルダーの皆さまからの期待や社会の要請に応じていくために、サステナビリティ全般に関わる基本方針や重要事項、リスクや機会などを検討・審議する組織として、CSR担当取締役を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置しています。サステナビリティ委員会での議論内容は取締役会に年1回上程・報告され、取締役会が監督・指示を行います。また、この委員会で抽出された気候変動による事業継続リスクは、BCP委員会にて具体的な対策を検討します。

サステナビリティ委員会における重要検討事項等

- ・炭素排出量(CO₂)削減目標、取り組みの管理
- ・TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に基づく情報開示
- ・健康経営方針の展開
- ・人権方針、購買方針の展開
- ・サステナブル研究開発フローの展開

マネジメント

2022年度より、サステナビリティやSDGsに関連する「人権方針」「健康経営方針」「購買方針」を新たに策定しました。これは社会に対してだけでなく、ニチバングループの社員の健康と幸せを実現するさまざまな施策も含まれます。

WEB サステナビリティ関連の方針類は、ホームページをご参照ください。
<https://www.nichiban.co.jp/corp/sustainability/sustainability/>

人権方針／健康経営方針／品質方針／環境方針／購買方針／危機管理方針／ITセキュリティ方針

バリューチェーンにおけるサステナビリティ

中期経営計画【ISHIZUE 2023～SHINKA・変革～】



<p>「購買方針」策定</p>	<p>ニチバンでは、お客さまに安心、安全な製品を提供し続けるための購買業務に必要な事柄を「購買方針」として再整理しました。本方針には、公正、公平で透明性を持った取引を行うだけでなく、環境や安全、法令遵守や人権の尊重など、持続可能性に対する考え方も含んでいます。サプライチェーン全体をニチバングループに関わるすべての人々と考え、皆さまの幸せを実現するための責任ある購買活動を推進していきます。</p>
------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ニチバンのサステナビリティ

マテリアリティ／目標／実績

ニチバンの事業活動によって影響を与える重要課題を再整理し、ステークホルダーにとっての重要課題とあわせてマッピングを行いました。その結果、「気候変動・地球温暖化対策」「環境・社会課題の解決に貢献する製品開発」「感染予防対策への貢献」「製品の品質向上と安全の確保」を、ステークホルダーとニチバンともに極めて重要度が高いと位置づけました。

また、今年度よりマテリアリティとして抽出した「サプライチェーンマネジメントの強化」では、社会的な影響度が高い原材料原産地での人権問題に焦点を当てています。同じく新たに追加した「イノベーション創出」と「グローバル市場へのスピーディな展開・拡大」については、中長期的な重要テーマとして継続的に取り組んでいきます。

テーマ	関連するSDGs	マテリアリティ	具体的なアクション	2021年度実績	2023年度目標
環境	6 安全な水とトイレを世界中に 7 気候変動に起因する影響を軽減する再生エネルギー利用	環境・社会課題の解決に貢献する製品開発	<ul style="list-style-type: none"> 環境・社会課題の解決に貢献する製品の開発基準の策定 環境を配慮した開発テーマ・新製品開発の促進 製品の天然素材比率向上によるさらなる環境課題への貢献 粘着テープの使用による家庭系食品ロス削減に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 「サステナビリティの考え方」リニューアル、社内外に発信 サステナブル貢献視点の「研究開発フロー」を策定、公開 	<ul style="list-style-type: none"> 開発評価指標の評価項目にSDGs・環境貢献項目を追加 環境に関する社会課題に対応した開発テーマの策定
	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001 環境マネジメントシステムの継続運用と監査の実施 製造時のエネルギー削減、脱溶剤化に向けた製造技術開発の推進 環境情報の開示 	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001の認証継続、全社員の環境意識や内部監査員のレベルアップ、環境マネジメントシステムの改善への取り組みを継続 脱溶剤の取り組み推進中 エネルギー使用実績：発熱量509万MJ、炭素排出量22,788t-CO₂ 社会・環境報告書をリニューアル、非財務情報を追加し「サステナビリティレポート」として発行 	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001の維持と管理レベル・質の向上 既存製品の脱溶剤化 製造時のエネルギー使用量削減 サステナビリティレポートの開示
	11 住み続けられるまちづくりを 12 つるまいる責任	化学物質の適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> 原材料のグリーン調達への推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「ニチバングループグリーン調達ガイドライン」に基づく適切な調達管理の継続 製品含有化学物質についての外部調査依頼への適切な対応の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、グリーン調達の推進とお客さまからの製品含有化学物質調査依頼への対応
	13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう	気候変動・地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> ニチバングループのCO₂排出量の削減 グリーン電力比率の向上、太陽光発電設備の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年6月のコーポレート・ガバナンス報告書にて開示予定としている、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言に基づく開示の取りまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度までに2013年度比10%削減(毎年前年度比2%削減) 2030年度削減目標の策定 再生可能エネルギー比率の向上 GHGプロトコルSCOPE算出と対策立案
	15 陸の豊かさを守ろう	資源の枯渇への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の有効活用による廃棄物の削減 水の効率的な使用および廃水処理の管理 サーマルリサイクルからリサイクルへの転換 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の99%以上をリサイクルする「ゼロエミッション」達成の継続 水使用量 701千m³(前年度比9%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ゼロエミッション工場の維持 水資源投入量(毎年前年度比2%削減) リサイクル化技術の探索
		生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> 巻心ECOプロジェクトの植林活動・江の川「森のしずく」保全活動 	<ul style="list-style-type: none"> 「第12回 ニチバン巻心ECOプロジェクト」実施 	<ul style="list-style-type: none"> 巻心ECOプロジェクトの継続実施、貢献度向上とNGOとのエンゲージメント向上
社会	3 中長期的な成長と雇用の創出 4 質の高い教育をみんなに	製品の品質向上と安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001 品質マネジメントシステムの継続運用と監査の実施 顧客満足度の向上 戦略的データ活用と社内業務生産性向上に向けた、新基幹システムの導入開始 全社改善活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001の認証継続、設計品質・製造品質および顧客満足度の向上を目指した取り組みの継続 新基幹システム：単体および国内グループ3社のうち2社に導入、業務標準化を推進 市場データ、特定領域での流通データ・店頭データ取得および分析、販売施策への活用 全社改善活動による生産ライン効率化、コストダウン削減施策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001の維持と管理レベル・質の向上 CS調査の実施 新基幹システムを利用した社内業務の効率化の実現 販売施策での先端マーケティングデータ活用促進 全社改善活動での効率化・省廃棄物・省エネ促進
	5 ジェンダー平等を實現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを	労働安全衛生と社員の健康への対応	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営の推進 [方針1]生活習慣病などの疾病の発生予防・重症化予防 [方針2]メンタルヘルス不調などのストレス関連疾患の発生予防 [方針3]健康に対する意識向上 [方針4]健康経営を推進する環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ニチバングループ健康経営方針の策定、推進体制、行動指針に基づく課題の取りまとめ、公開 	<ul style="list-style-type: none"> 予防の観点からの課題抽出 健康に対する意識向上 健康経営を推進する環境の整備 ※詳細は「ニチバン健康経営方針」にて掲載

テーマ	関連するSDGs	マテリアリティ	具体的なアクション	2021年度実績	2023年度目標
社会	     	ダイバーシティ推進と人財育成	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍と障がい者雇用の推進 社員エンゲージメント向上・組織マネジメント力強化の取り組み推進 中期人財育成体系の再整備・テクニカルスキルマップを活用した必要スキルの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍推進に向けた第2次行動計画(2019年4月～2024年4月)の取り組み推進 ダイバーシティ研修の実施 時差通勤制度、在宅勤務制度の導入 障がい者職場の活性化に向けた取り組み「ステップ」活動継続、特別支援学校からのインターンシップ受け入れ、障がい者のトライアル雇用実施 テクニカルスキルマップ運用による、中長期ビジョン達成に必要な各部署のスキル明確化、スキル向上の教育実施 	<ul style="list-style-type: none"> 法律で定められた障がい者雇用率の実現と維持 障がい者とともに成長していく職場づくり 管理職に占める女性の割合10%以上 エンゲージメント・レーティングスコア 50.0(B) テクニカルスキルマップの確実な運用
		サプライチェーンマネジメントの強化	<ul style="list-style-type: none"> 原材料原産地とのエンゲージメント強化(人権・環境問題) 購買方針の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 購買方針の策定/今後のSAQに向けて、コンプライアンスの徹底、機会均等と透明性の確保、環境負荷低減への貢献、「持続可能な調達」観点からのお取引先選定を明文化 	<ul style="list-style-type: none"> 「セロテープ®」原材料産地への視察実現と現地の自然環境、労働環境の把握と改善貢献 主要原材料購入先へのSAQを実施 取引先への購買方針の説明会の実施
		地域・社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 事業所周辺地域とのコミュニケーション活動 小学校への出前授業による啓蒙活動 障がい者支援 アスレティックトレーナーの育成 オフィシャルサプライヤーを通じた支援とケガを防止するテーピング技術の啓蒙活動 	<ul style="list-style-type: none"> (公財)日本サッカー協会JFA Youth&Development Programme (JYD)に参画を継続、次世代のアスレティックトレーナー育成を目的とした「SOCCER MEDICAL CAMP」に参画。テーピング実技、考え方を伝えるセミナーの継続 	<ul style="list-style-type: none"> アスレティックトレーナー育成活動とテーピング技術啓蒙活動の継続
		医療への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 絆創膏や止血製品、ドレッシング材による感染予防への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 止血製品はCOVID-19ワクチン接種需要が大幅に拡大、国内最大シェア企業として供給責任を果たすべく、緊急的な大幅増産を実施、全国のワクチン接種会場や医療機関に滞りなく供給を実施 タイ国の一部の医療施設に対しても、ワクチン接種のための止血製品を供給 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策製品が普及していない地域(国)へのタイムリーな供給体制の整備
ガバナンス	 	コーポレート・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制システムの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制委員会を設置し、内部統制システムに関する体制の整備、運用と効率的かつ健全で信頼性の高い経営のための、コーポレート・ガバナンスに関する取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門・グループ会社での自律的な内部統制・リスク管理の強化 グローバル視点を含めたガバナンスの強化
		コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの浸透(行動ハンドブック・Eラーニングによる教育) 内部通報窓口の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 行動ハンドブックを作成し、グループ内に配布の上、社員のとるべき行動指針を周知啓蒙 グループ内にてハラスメント相談窓口体制を構築するとともに、社員向けEラーニングや外部講師によるハラスメント防止研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体でのコンプライアンス強化に向けた教育の実施と体制の構築 グローバル視点を含めたコンプライアンスの強化
		リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応訓練の実施 BCP/BCMによる安定供給体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模地震を想定した「全社緊急対策本部設置訓練」を実施し、本社・工場・オフィス間の指示系統の確保および被災情報の一元化、見える化を図る情報集約体制の構築 BCP委員会(年2回)で抽出された事業継続計画の課題を解決すべく、グループ全体での情報共有および対応方法の決定、推進 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害を想定したグループ全体での緊急時対応訓練の継続実施 BCP基本方針に基づいた事業継続計画の確立と維持運用
		情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> IT統制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> IT統制の社内標準書に基づき、開発および運用、適切なリスク管理および監査対応を実施 グループIT連絡会を3回実施、システム運用・インフラを含めた整備、トレーニング状況を確認し、課題進捗と今後の対策の取りまとめを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ニチバングループITセキュリティ方針に則った企業活動の実施とさらなる管理レベルの向上
ビジネスイノベーション	 	イノベーション創出	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発組織の再編 スタートアップ企業の協働プログラム推進 自社技術の棚卸有効活用 グループ社内提案制度の活用 	<ul style="list-style-type: none"> BtoBの顧客現場課題に対する提案、BtoBコンシューマー視点・企画開発への取り組み実施 スタートアップとのアクセラレータープログラム:実証実験実施、一部テーマを取り込み 社内提案制度の運用継続、アイデア創出に向けて、「日常の困りごと」など幅広く意見、情報を収集 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客機軸ベース・マーケットインを意識した開発体制の推進 スタートアップ企業との協業開発製品・サービスの上市 オープンイノベーションを活用した新たな事業展開推進 社内提案制度 Nbrainを活用した開発品・製品開発提案、idea farm(社内SNS)でのひらめき・情報共有の推進
		グローバル市場へのスピーディな展開・拡大	<ul style="list-style-type: none"> タイ(東南アジア・南アジア・中東地域)・ドイツ(欧州地域)を含む全世界に対する新規開発活動の推進 重点地域における戦略的パートナー探索・選別(業務提携・M&A) 	<ul style="list-style-type: none"> 「CARELEAVES™」の取扱店増加、傷をやさしく保護する高機能絆創膏の普及を促進 注射後の穿刺部に衛生的に貼付できる止血絆創膏「CESABLIC™」の告知推進、一部地域での採用 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防製品の教育啓蒙と販売の拡大 感染症予防対策製品が普及していない地域(国)へのタイムリーな供給体制の整備

社会の一員として、
ニチバングループは
「未来を創る」ことに取り組みます。

代表取締役社長

高津敏明

<事業環境認識と2021年度総括>

新たな日常における事業成長に向け、視点の転換を図っています。

2021年度のニチバングループは、顧客機軸で再編した組織による事業活動を本格的に始動させました。新型コロナウイルス感染症に加え、ロシアによるウクライナへの侵攻等、さまざまな地政学リスクが顕在化し厳しい事業環境が続いていますが、その中でも各セグメントにおいて組織再編と投資を行い、顧客を機軸としたマーケティング・販売施策、収益改善・新規創出のための取り組みを推進いたしました。

[コンシューマー] 認知度拡大に注力

ヘルスケアフィールドでは、2022年に発売25周年を迎える「ケアリーヴTM」がコロナ禍における手荒れやかきざれ需要を取り込み、昨年度同様、好調に推移しています。また、鎮痛消炎剤「ロイヒ」シリーズは国内向けにシフトした結果、徐々にではありますが需要が伸びてきています。これらは、認知度拡大に向けたキャンペーン等、お客さまとのコミュニケーションを継続した成果が現れているものと認識しています。さらに、withコロナの中で戻りつつあるスポーツ需要とともに、「バトルウィンTM」シリーズも回復傾向にあります。

オフィスホームフィールドでは、テレワークの継続・拡大によりオフィス向け製品が伸び悩んでいることを受け、今後は家庭向け製品に注力します。すでにラインアップしている「フィルムクロステープ養生用」や、食品ロス削減にも貢献できる「ディアキチTM ワザアリTM テープ」のさらなる認知度向上とともに、新製品開発を加速させていきます。

新たに立ち上げたECフィールドは、オンライン上での最適な、お客さまが選びやすい、わかりやすい「買い場」構築を進めており、2022年度も継続して取り組んでいきます。

[医療材] 適時適切な製品供給体制を構築

医療材フィールドは、コロナ禍を背景に不急の手術延期が継続しており、関連製品の需要回復には至りませんでした。一方、2021年度はワクチン接種の加速と連動して、「チューシャバンTM」などの止血・保護材への需要が急速に高まりました。これに対し当社では、お客さまや患者さまにご迷惑をおかけしないよう、また社会の要請に応えることができるよう臨時的な生産体制を構築し、ワクチン接種会場や医療施設などへの安定供給に努めました。2022

年度はワクチン接種に関する需要が落ち着きを見せることから、対前年度比の売上は減少を見込みますが、引き続き必要な場所に必要な数の製品を供給するべく、安定生産を図っていきます。

[工業品] 製品の「価値」を訴求

工業品フィールドは、半導体不足による自動車メーカーの減産、年度末以降は原材料価格上昇が続いています。その中で当社は、製品の販売価格を改定するとともに、「顧客現場の課題に対する新規提案」の開発活動、また主原料に天然素材を使用している「セロテープ[®]」による脱プラ・SDGs貢献としての価値訴求に努め、「Small Action For the Future」としての活動を通じて、多くの企業からご賛同をいただくことができています。今後も価格だけではなく、製品の「価値」を提供するという姿勢により、事業成長につなげていきます。

[海外] 中計目標達成が視野に

渡航制限が継続する中、webを活用した啓蒙活動に加え、タイのNICHIBAN (THAILAND) CO., LTD.と、新たに設立したドイツのNICHIBAN EUROPE GmbHを中心に展開を加速させました。タイはこれまでの自動車関連に加え、病院向けの医療用品が好調な拡大を見せています。また、ヨーロッパは感染症の影響からいち早く日常を取り戻しており、一部自動車産業への課題は残るものの、海外では新規導入品となる建築用の和紙マスキングテープなど、従来品の需要が増加しています。日本で管轄する領域では、韓国向けの「ケアリーヴTM」が大幅に伸長し、シェアを拡大しています。中期経営計画【ISHIZUE 2023～SHINKA・変革～】では、海外売上高比率目標を10%目途としており、現時点で目標達成への道筋が見えてきています。

<中期経営計画進捗>

5つの取り組みテーマを軸に、未来を見据えた経営判断を行います。

【ISHIZUE 2023 ～SHINKA・変革～】では、5つの取り組みテーマを設定しています(図1)。中計策定時、世界がこれほどまでに変わることになるとは予測していませんでしたが、どのような環境であろうとも、この5つは『NICHIBAN GROUP 2030 VISION』実現に向けた当社の重要テーマであり、その軸は揺らぐことはありません。2021年度も各テーマに堅実に取り組んでおり、次期中計で“跳躍”を見せるための“礎”を築き上げつつあります。以下に、特に重視している「グローバル展開」と「イノベーション創出」について、2021年度の現在地をご説明いたします。

グローバル市場へのスピーディーな展開・拡大

先述のとおり、日本、ドイツ、タイの3つの販社を起点に拡大を図っています。特筆すべきこととして、韓国における「ケアリーヴTM」が好調であり、パートナーとなる代理店さまとも良好な関係を築けていることから、今後さらなる拡大を見込んでいます。一方、中国への展開には課題を抱えています。人口、GDPともに魅力的な市場であることは確かですが、新型コロナウイルスの影響、そしてカントリーリスク等から、慎重にならざるを得ない状況です。中国市場については、引き続き現地パートナーの選定を進めていきます。

当社のグローバル展開においては、人財の現地化を基本としています。やはり、国が違えば文化や風習は異なります。私は、その地の事情をよく理解し、現地の言葉を用いて事業を行うことの重要性を特に感じています。そのため、社員は現地採用をベースとし、将来的には幹部候補としての育成も視野に入れています。もちろん、各地での理念経営も徹底しており、日本人社長による理念の浸透とともに、私自身が現地を訪問し、直接対話する機会を設けています。2022年5月には、タイで「理念ミーティング」を行いました。さらに2022年秋頃には、ドイツへの訪問も計画しています。

イノベーション創出に向けた事業推進体制

これまで段階的に組織改革を実行してきましたが、2020年度に生産本部を、2021年度に研究開発本部を立ち上げ、さらに顧客機軸の営業体制を構築したことで、中計策定時に描いた組織をほぼ完成させることができました。それにともない、消費者の嗜好や行動を的確に捕捉するべく、新たにブランドマーケティング部を設置しました。ここで得た情報を分析しお客さまとのコミュニケーションに活かすとともに、新製品開発にも反映させていく計画です。

組織再編が実現した今、次なる課題はスピーディーなイノベーションの創出です。そこで2022年度より、開発担当取締役を配するとともに、優先して取り組むべき13のテーマと8のフィールド

を定めました。今後は中長期ビジョンに掲げている「グローバルに人々の生活に貢献すること」を軸に、環境への配慮や患者さまのQOLの向上、感染対策に資する製品開発などに注力していきます。原材料価格の高騰などを背景とする仕様変更にも的確に対応しつつ、当社の次を担う新たな製品を生み出すべく、経営判断から現場の研究活動に至るまで、統一意思のもとでのイノベーションを加速させていく決意です。

世界の市場環境を鑑み、中計最終年度の目標に掲げていた売上高600億円を470億円へと下方修正いたしました。5つのテーマにしっかりと向き合い、抑えるべきコストは抑え、一方で未来につながる投資への姿勢は変えることなく、メリハリの利いた経営を行っていく所存です。

私は、不確実・不安定な事業環境の中で、一瞬でも成長に向けた行動を止めることがあれば、その時間を取り戻すことは容易ではないと考えます。過去に成功事例を求め、100%の確信を持ってから動き出すのでは、世界から遅れをとってしまう。今後、市場がどのように変化するか予測するのは困難ですが、足元だけを見るのではなく、未来を見据えた経営判断を行っていきます。中計の取り組みテーマのひとつ、「事業戦略推進に向けたAI・IoTの積極活用」において行った基幹システムへの投資も、その一環です。生産や販売の数字をタイムリーに把握することで、未来の数字をつくるための選択を行っていきます。

2022年度は、下期より次期中計の策定に入ります。現中計の課題と進捗をふまえ、当社の持続的成長に向けた戦略・戦術の検討を進めていきます。



<サステナビリティ>

気候変動への対応を最優先事項に、ニチバンだからこそその貢献を実行します。

2022年度に、当社のサステナビリティ重要テーマを再整理いたしました。当社グループの重要度とステークホルダーの重要度とを照らし合わせ、気候変動への対応を最優先事項としています。当社における気候変動への対応には、製造時の温室効果ガス排出削減はもちろんのこと、環境課題、社会課題に資する製品開発も含んでおり、新たな研究開発体制の中でもサステナビリティの視点を重視しています。また、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)への対応も着実に進めています。新たなカテゴリーとして掲げた「ビジネスイノベーション」についても、社会に貢献するイノベーションを生み出すことを企図しており、こうして当社と社会とがともに成長していくことを、ニチバンのサステナビリティの軸に据えています。

当社の財産である人財については、ダイバーシティを基本に、社員一人ひとりがニチバングループで働いてよかったと思えるよう、そして誇りを持つことができるよう、仕事を通じた社会への

貢献に軸足を置いた取り組みを進めていきます。その結果として持続可能な社会を実現し、すべての人の幸せを実現する、これがニチバングループの基本理念です。

同時に、ガバナンスの強化も進めています。2022年度からは社外取締役女性を登用し、社内取締役4名、社外取締役4名の構成としました。社外取締役からはグローバル展開やイノベーションに向けた投資計画等、将来のニチバンについてご指摘をいただいています。また、社外取締役が必要と判断される際には自由に経営執行会議にご参加いただける体制としており、新たにご就任いただいた社外取締役も医療分野への専門的知見を有していることから、当社の医療材について忌憚のないご意見をいただけるものと期待しています。さらに、当社のガバナンス体制をより一層強固にするべく、経営と執行の責任の明確化にも取り組んでいます。

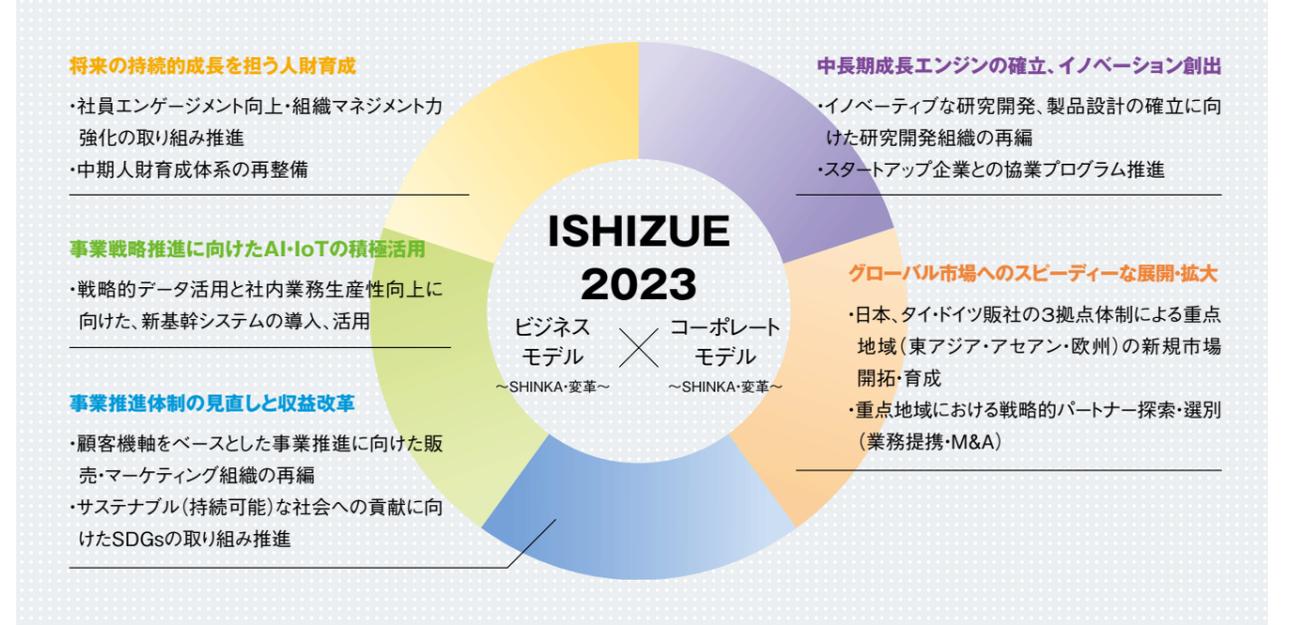
<終わりに>

理念をベースとする成長とチャレンジで、ビジョンを実現します。

現中計のスタートと同時に掲げた経営理念は、次なる段階を迎えています。これまでやってきた「理念の浸透、自分ごと化」は一定の成果を得ていることから、その先にあるチャレンジ、すなわち「チャレンジによる成長とスピーディーな行動」を2022年度の全社方針としています。そして組織としても、個々のチャレンジを後押

しし、失敗をも許容する企業風土を醸成していきたいと考えています。これら社員一人ひとりの行動と組織風土が、『NICHIBAN GROUP 2030 VISION』を実現するための基盤であり、創業以来、「人は価値を生み出すもの」と捉える当社グループの強力なエンジンです。今後のニチバングループにご期待ください。

(図1) 中期経営計画【ISHIZUE 2023 ～SHINKA・変革～】取り組みテーマ進捗

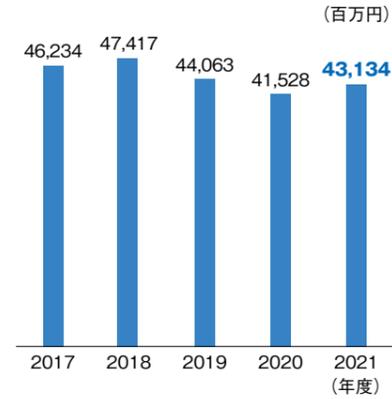


パフォーマンスハイライト

財務情報(連結)

※1 2017年10月1日付けで普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しています。
2016年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しています。

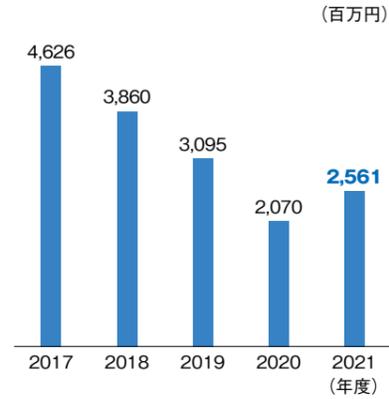
売上高



営業利益/売上高営業利益率



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益/ROE



1株当たり当期純利益*1/1株当たり配当金



総資産/純資産



キャッシュ・フロー



設備投資額/減価償却費



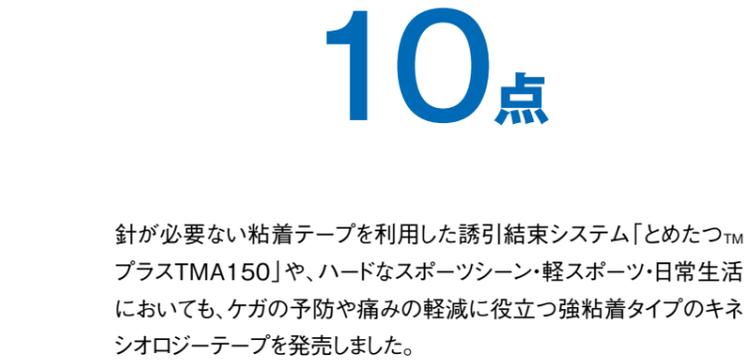
研究開発費



非財務情報※2

※2 対象範囲:ニチバン株式会社 (CO₂排出量を除く)
※3 対象範囲:安城事業所・埼玉事業所・国内グループ会社3社・本社

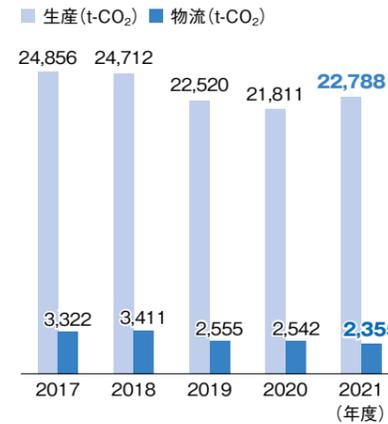
新製品上市点数



特許保有数



CO₂排出量※3



※集計範囲・方法の見直し等により、今後数値が変動する可能性があります。

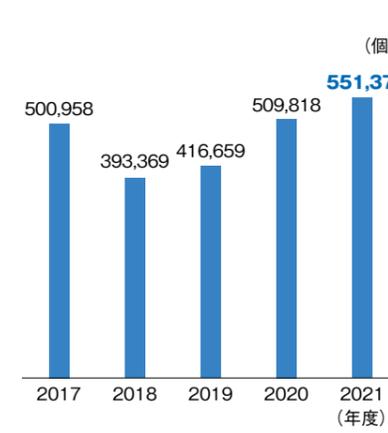
平均勤続年数/離職率



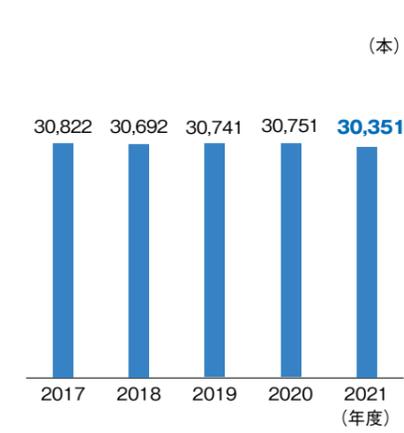
管理職の状況



巻心回収数



マングローブ植樹本数



社会貢献活動件数



セグメント情報

コンシューマー



ケアリーヴ™ 治す力™

セロテープ® 大巻 ハンドカッター
(まっすぐ切れるタイプ)

■ 市場環境と2021年度実績

ヘルスケアフィールドは、大衆薬市場で鎮痛消炎剤「ロイヒ」シリーズや高機能救急絆創膏「ケアリーヴ™」シリーズについて、国内需要拡大に向けた認知度向上のための販促キャンペーンなどのPR活動を行うとともに、継続した試供品配布を行ったことにより、フィールド全体としての売上は前年同期を上回りました。

オフィスホームフィールドは、文具事務用品市場で、「セロテープ®」について「セロテープ® 大巻 ハンドカッター(まっすぐ切れるタイプ)」を発売してラインアップの拡大を進めるとともに、両面テープ「ナイスタック™」についてインテリア関連サイトと連動し認

知度向上のための販促キャンペーンを実施しましたが、ともに売上は前年を下回りました。その結果、フィールド全体としての売上も前年同期を下回りました。

EC市場は、人との接触を減らすオンライン購買への期待は依然として高く、その購買行動に対するWEBマーケティングを強化しました。特にEC市場において、お客さまが選びやすい・わかりやすい買い場へと改善したことにより、フィールド全体としての売上はほぼ前年並みとなりました。

■ 2022年度方針

顧客機軸をベースとした事業活動の強化と戦略のスピーディーな実行により、事業の継続成長を実現。

- ・デジタルマーケティングの強化、事業性利益の確保・向上
- ・「ケアリーヴ™」発売25周年企画をはじめとするプロモーション、オウンドメディア強化の推進
- ・新製品・新企画 営業・開発・生産・連携連動型活動の強化
- ・EC市場での最適買場構築（SEO対策とCVR向上施策の推進）と戦略的製品提案

医療材



チューシャバン™



インジェクションパッド

■ 市場環境と2021年度実績

医療材フィールドは、医療機関向けの医療材料市場において、2022年3月に入り変異株による新型コロナウイルス感染症再拡大はピークを過ぎたものの、依然として医療施設の重症病床使用率は高い水準にあり、不急の手術が延期されるなど、先行き不透明な販売環境が続いています。

このような状況のなか、止血製品シリーズ「セサブリック™」の売上はワクチン接種需要拡大にともない伸長し、「チューシャバン™」や「インジェクションパッド」を中心に安定供給を実施しました。これにより前年同期を上回り、フィールド全体としての売上も前年同期を上回りました。

■ 2022年度方針

医療分野における開発体制の最適化とサステナブル施策の推進

- ・止血製品などによる感染症対策への貢献
- ・患者さんQOL向上への貢献に向けて、安心・安全・快適を追求した価値提案と術後トータルケアの啓発活動強化
- ・スピーディーな営業・学術・開発・連携連動型体制による、持続可能な医療体制への貢献
- ・最適商流と安定した事業基盤の構築

工業品



セロテープ® 産業用



セロテープ® フードパッケータープ

■ 市場環境と2021年度実績

工業品フィールドにおける産業用テープ市場は、新型コロナウイルス感染症再拡大による行動制限にともない外食やレジャーなどのサービス消費が低迷するとともに、半導体不足による自動車メーカーの減産や原材料価格上昇などもあり、依然として先行き不透明な販売環境が続いています。

このような状況のなか、「セロテープ®」については、天然素材を使用した環境配慮製品であることを特設ホームページやパンフ

レット等を通じて啓蒙し、SDGsへの取り組みとして多くの自治体や企業にご賛同いただきました。

また、食品スーパー向けの売上は、新型コロナウイルス感染症による中食・内食化需要の継続により、お弁当・お惣菜の蓋固定に使用する「セロテープ® フードパッケータープ」が好調に推移し、フィールド全体としての売上も前年同期を上回りました。

■ 2022年度方針

営業・開発・工場技術 連携連動型事業体制の確立と実践
環境配慮型製品の開発、提案

- ・セロテープ® SDGs: 主原料が自然由来・天然素材の製品であることによる環境訴求、賛同企業のエンゲージメント強化、企業間連携の実現
- ・エリア別重点カテゴリー: 流通パッケージング、コンストラクション（建築・土木）、アグリ、モビリティへの注力、ユーザー接点拡張による拡大策の実践

海外事業



Panfix™ Cellulose Tape (タイ製)



ステプティ™ ページュタイプ

■ 市場環境と2021年度実績

メディカル事業にかかる海外市場は、新型コロナウイルス感染症による先行き不透明な状況が続きましたが、重点地域であるアジアおよび欧州にて、高機能救急絆創膏「ケアリーヴ™」シリーズや止血製品シリーズ「セサブリック™」を中心に、現地に密着した営業活動を展開しました。特に「ケアリーヴ™」シリーズは主に韓国や台湾にてラインアップ拡大が進み好調に推移し、ASEANおよび欧州における医療材製品も堅調に推移しました。その結果、メディカル事業にかかる海外フィールドとしての売上は前年同期を上回りました。

テープ事業にかかる海外市場は、依然として先行き不透明な状況が続いているなか、重点地域であるアジアおよび欧州にて、「Panfix™ セルローステープ」や塗装用和紙マスキングテープの市場開拓や用途拡大を推進しました。特に「Panfix™ セルローステープ」はインドネシア市場への取り組みを強化し、塗装用和紙マスキングテープは、欧州市場での取り組みを強化するなど、販売チャネルの構築と製品育成に注力した結果、テープ事業にかかる海外フィールドとしての売上は前年同期を上回りました。

■ 2022年度方針

グローバル貢献企業に向けて、ニューノーマル社会に対応した活動を実践し、継続的3拠点成長(HEADQUARTER、NICHIBAN (THAILAND) CO.,LTD.、NICHIBAN EUROPE GmbH)を実現

- ・主要4ブランド(高機能救急絆創膏「ケアリーヴ™」、止血製品「セサブリック™」、海外向けセロテープ「Panfix™」、和紙マスキングテープ)、育成3ブランド(フィルムドレッシング「カテリープラス™」、鎮痛消炎剤「ロイヒつば膏™」、術後ケア製品「アトファイン™」)への注力
- ・現地顧客・代理店のパートナー化加速
- ・プル型営業: 顧客・ユーザー向け情報発信手段の充実

気候変動への対応

2030年までに、
2013年度比40%の
CO₂排出削減を目指します。

専務取締役
管理担当(兼)CSR担当
酒井 寛規



当社は、サステナビリティの基本的な考え方として、「事業活動を通じて社会、自然との共生を目指し、ステークホルダーとともに持続可能な発展に貢献する取り組みを進める」ことを掲げています。2021年度、これまでのサステナビリティ重要テーマを再整理し、気候変動と温暖化対策を極めて重要度の高いテーマと位置づけました。同時に、国内メディカル事業とテープ事業において、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)のシナリオ分析を進めており、2°Cシナリオでは想定される炭素税などのコスト増をリスクとして、また、主な原料に天然素材を使用している「セロテープ®」をはじめ、環境配慮型製品の創出による事業成長を機会として特定しています。

あわせて、温室効果ガス排出削減目標を、「2030年までに2013年度比40%削減」として公表しました。この目標達成に向けた現時点での最大の課題は、電力使用量の削減です。これ

までも省エネや歩留まりの向上、太陽光発電設備の設置やコージェネレーションシステムの導入などに取り組んできましたが、さらに一歩踏み込んだ施策が必要だと認識しています。現在、製品の製造工程を見直し、原料の天然素材比率を上げる、包装材を削減することに加え、研究開発の段階から脱炭素の視点を取り入れることにも着手し始めています。2021年度は「セロテープ®」を中心にグリーン電力証書購入による「ニチバンエコサークル」を完成させました。また、原料となる樹木の植林にも継続して取り組んでおり、さらなる拡大も視野に入れています。

原材料調達から、製造、使用、廃棄・焼却に至るまで、バリューチェーン全体でCO₂排出を削減するべく、年度ごとに明確な目標とアクションを定めて取り組みを推進する決意です。加えてTCFDについては、Scope3や海外グループ会社における分析にも着手していきます。

TCFDに基づく気候関連財務情報開示への対応

「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言において推奨されている、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について、以下のとおり開示を行っています。今後、さらなる開示内容の充実を図ります。

ガバナンス

気候変動に関する検討は「サステナビリティ委員会」のもとで行い、その内容は取締役会に上程・報告され、取締役会が管理・監督を行います。

戦略

中長期的なリスクの一つとして気候変動リスクを捉え、IEAやIPCCによる気候変動シナリオを参照し、2050年までの影響を考察し、シナリオ分析を行っています。

リスク管理

シナリオ分析によるリスク・機会の発生可能性と影響度の大きさを勘案し、重点リスク要因に注力して取り組み、サステナビリティ委員会で確認、対策立案等を行います。

指標と目標

Scope1とScope2に該当する温室効果ガス(CO₂)の総排出量を指標とし、2030年に2013年比40%削減、2050年にネットゼロを掲げ、実現に向けて取り組んでいきます。

詳細はホームページをご覧ください。
<https://www.nichiban.co.jp/corp/sustainability/sustainability/tcfd/>

ダイバーシティ戦略

個の違いを認め、
歓迎しあう組織風土を醸成し、
多様な人財が力を発揮できる
ニチバンをつくり上げます。

執行役員
管理本部 人事部長
小林 祐子



ニチバングループの大きな特長のひとつに、「人」を大切にするという姿勢があります。企業にとっての「人」は単なる労働力ではない、価値であり財産である。これはニチバングループの理念の根底にあるものです。

「人の価値」、それは多様性にあると考えます。人種、性別、年齢など、あらゆるバックボーンを認め合うことはもちろん、多種多様な価値観や考えを持つ一人ひとりが尊重されることが、当社のダイバーシティ戦略における基本的な考え方です。目まぐるしく変化する事業環境の中で、100年以上の歴史を持つ老舗企業として守るべきものは守りながら、さらなる成長を果たしていくためには、イノベーションは不可欠です。今までにない視点から新たな着想を得て、新製品や新事業の種を見つけたい。その最初の一步、革新の芽は、異なる価値観や考えを持つ個と個の境界線にこそ生まれるものだと思います。

そして、ニチバングループの多様性から生み出される価値のベクトルを合わせるためには、企業理念の存在が非常に重要です。現在、当社は経営トップの発信のもと理念経営を推進しており、理

念を浸透させるべく、職場ごとに「理念ミーティング」を行っています。職場のメンバーが日々の経験について理念を軸に主体的に語り合うことで、相互に認識の共通化が図れ、日々の行動を理念にリンクさせることが徐々に可能になっていきます。これまでは、なかなか自分の考えを言葉にする機会が少なかった社員もいることは事実ですが、このような場をつくり、対話を継続することが深いレベルでの合意形成や新たな知恵を生み出すことにつながり、次の100年への礎になるものと考えます。

加えて、女性活躍推進にも継続して取り組んでいます。KPIとして2024年4月に女性管理職比率10%を掲げていましたが、2年前倒しとなる2022年4月に目標を達成しました。引き続き、女性リーダー層への教育研修はもちろん、さまざまな階層に向けてダイバーシティに関する啓蒙や教育を継続し、誰もが活躍できる職場を目指します。

今後もニチバングループならではのダイバーシティのあり方を追求し、「多様性から生み出される価値」と、そのベクトルを合わせる「企業理念」をベースとする強くなやかな組織づくりを進めていきます。

人権方針の策定

すべての事業活動は人権尊重を前提に成り立つものであり、人権に対する負の影響への適切な対応はグループ全体で取り組むべき重要課題であると認識しています。そこで、2022年4月に「ニチバングループ 人権方針」を策定しました。本方針に基づき、人権に関する重要課題を、お客様、役員と従業員、ビジネスパートナー、地域・社会、ステークホルダーのそれぞれについて設定しました。また、差別、ハラスメント、強制労働、児童労働、結社

の自由と団体交渉権、労働安全衛生、地域社会、ハイリスクな状況を事業活動に関連する人権課題とし、取り組みを行っています。

ニチバングループでは、ニチバンに関わるすべての人々の人権を尊重し、事業を通じて直接的に関係している人権のみならず、間接的に関与している人権も含め、グループ全体で人権尊重に向けた対応を推進していきます。

環境

環境・社会課題の解決に貢献する製品開発

■ 環境・社会課題の解決に貢献する開発基準の策定

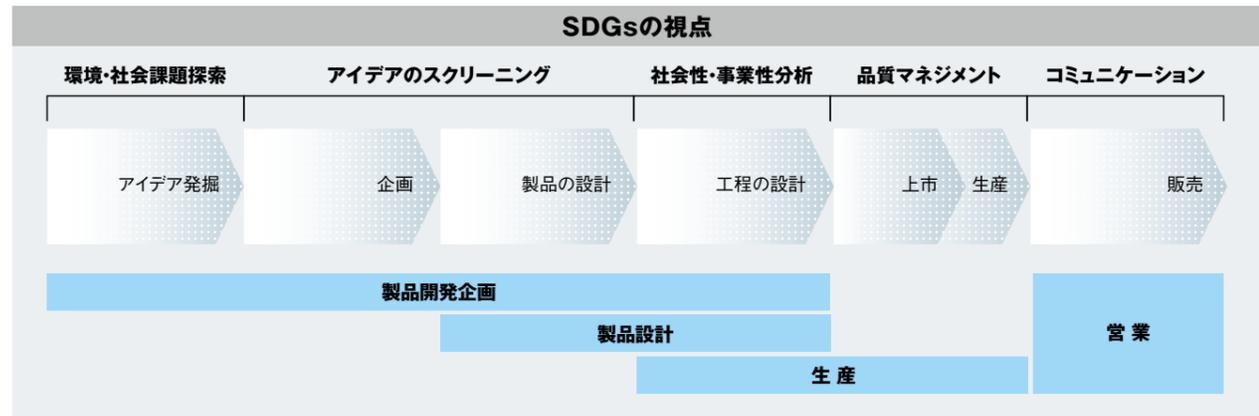
ニチバンでは、研究開発の段階から環境・社会課題解決に資する視点を取り入れています。製品の環境負荷は「どう設計されたか」で決まるため、研究開発フローの中でSDGsへの貢献を意識することは、ライフサイクル全体にわたって環境負荷の低い製品を生み出すことにつながります。さらに、環境・社会課題の探索の中で新製品のアイデアを発掘することは、サステナブルな社会づくりへの貢献となります。これらはすぐに成果が出るものではありませんが、これからのニチバンが「ありたい姿」を実現するとともに、未来のニチバンのお客さまがサステナブルな製品を選択することができるよう、製品を製造・販売するメーカーとしての責任を果たしていきます。

■ 環境を配慮した開発テーマ・新製品開発の促進

市場性だけでなく、環境・社会課題に貢献する開発テーマの探索を行っています。また、開発品の環境負荷を全ライフサイクルにわたり評価を行うとともに、原材料の化学物質含有情報や枯渇資源への配慮を可視化して管理しています。

さらに、CO₂排出量削減の2030年度目標達成に向けて、2022年度より開発組織もサステナビリティ委員会に参画し、研究・生産と一体となり環境対応製造方式による新製品開発の取り組みをスタートしました。社内標準化委員会では、アイデア発掘、企画、製品の設計、工程設計、生産、販売、廃棄に至るすべての過程でSDGsの視点を持つ研究開発フローの検討を開始し、サステナブルな製品開発の促進に向けて活動しています。

研究開発フロー



環境負荷の低減

■ 環境マネジメントシステムの継続運用と監査の実施

ニチバングループは2000年に環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、ISO14001の認証を取得して以降、20年以上にわたって認証を継続しています。社内で実施する内部監査や外部審査機関による審査を通して、職場で抱えている疑問や問題点を抽出・展開し、効果を出すことができる仕組みをつくり上げています。また、「EMSに準拠して業務を進めているか」、「環境法規制を遵守しているか」、「環境パフォーマンスの向上につながる活動ができていないか」などを確認し、EMSの継続的改善に役立てています。今後も全社員の環境への意識向上や内部監査員のレベルアップを図ることで、さらなる環境貢献の実現とEMSの改善を目指していきます。

■ 溶剤使用量の削減、脱溶剤への取り組み

ニチバングループでは、生産性の向上および生産条件の変更による溶剤使用量の削減に継続的に取り組んでいます。

同時に、糊を熱で溶かして粘着テープを製造する「ホットメルト塗工方式」や、水を使用する「エマルジョン粘着剤」など、有機溶剤を使用しない技術の開発を進めています。これらは環境負荷の低減効果を検証し、新製品への適用をはじめ既存製品への導入も進めています。また、さらなる脱溶剤化を進めるべく、新しい生産方法の研究開発にも取り組んでいます。

化学物質の適正な管理

■ 原材料のグリーン調達促進

ニチバンでは、「環境方針」に基づき、全ライフサイクル(開発・製造・流通・使用・廃棄)にわたり、安全と健康と環境面の配慮に努めた製品づくりを追求しています。その一環として、環境負荷が少ない原材料・部品の調達と、化学物質の適切な管理を推進しています。「ニチバングループグリーン調達ガイドライン」において、この取り組みを積極的に進めるにあたっての当社の考え方、購買先をお願いしたい事項を明示、公開し、サプライチェーン全体で環境負荷の低減を進めています。

■ ニチバングループのグリーン調達基準

1. 化学物質規制や汚染防止に関する法規制、協定や業界の指針等の遵守
2. 購買先の環境への取り組み
3. 原材料、部品、製品の含有化学物質の管理

気候変動・地球温暖化対策

■ ニチバングループCO₂排出量の削減

2022年6月29日に開示されたコーポレート・ガバナンス報告書にて、ニチバンが目標をもって取り組むべき重要な環境・社会課題の一つとして、CO₂排出削減目標を、2013年度比で2030年に-40%、2050年にネットゼロと公表しました。以前からの取り組みである省エネや歩留まり向上に加え、環境価値の活用や、SDGsの視点を取り入れた研究開発フローを実現することで、ライフサイクルにわたって環境負荷が低い製品を生み出すことにも取り組み、目標達成を目指していきます。

■ グリーン電力比率の向上

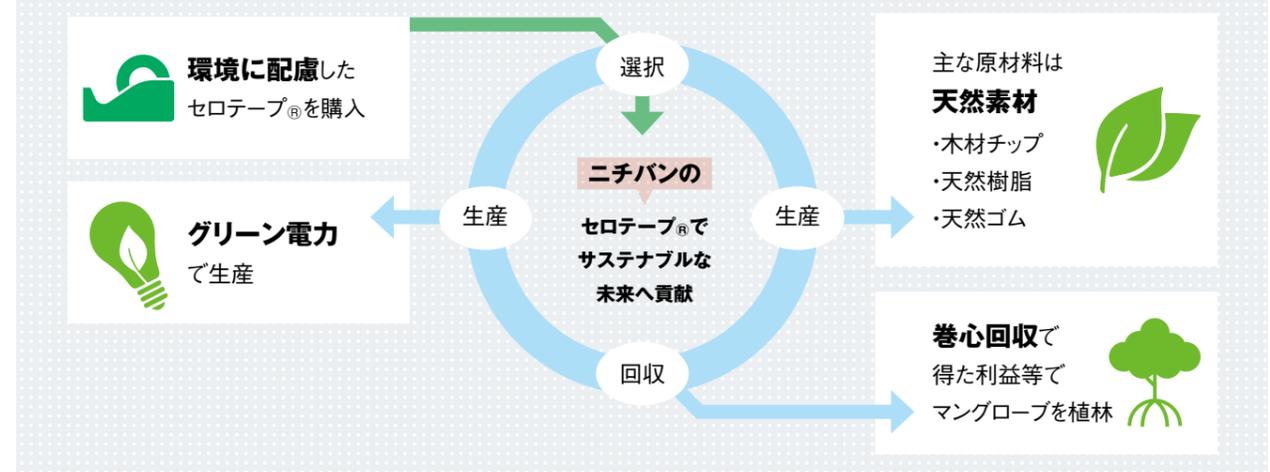
2021年11月より、ニチバングループおよび関連会社において、「セロテープ®」およびセロハン基材の粘着テープの製造に使用する全電力量と、本社、全国7つの営業オフィスにて使用する全電力量に相当するグリーン電力証書の購入に関する契約を、日本自然エネルギー株式会社と締結しました。さらに2022年3月には、ニチバンメディカルにて「ケアリーヴ™」の生産に使用する全電力量についても、同様の契約を締結しています。グリーン電力の活用により、ニチバングループで製造するすべての「セロテープ®」、セロハン基材の粘着テープ、「ケアリーヴ™」の製造工程

における環境負荷を低減し、サステナブルな社会づくりに貢献していきます。

■ 太陽光発電設備の設置

エネルギー削減によるCO₂排出量削減に向け、2021年11月に4棟屋上、2022年6月に2棟屋上(発電開始は8月中旬頃を予定)への太陽光パネル設置を完了しました。これにより、年間で約55万kWhの発電量が見込まれます。

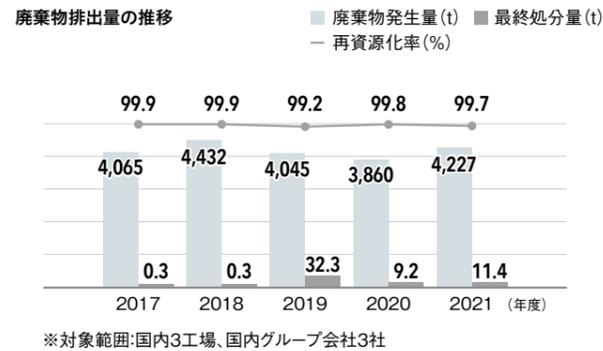
■ 「セロテープ®」を中心とするエコサークル



資源の枯渇への配慮

■ 原材料の有効活用による廃棄物の削減

製造工程で使用する消耗品を使い捨てにするのではなく、品質に問題のない範囲で繰り返し使用するなど、廃棄物の削減に取り組んでいます。2021年度は製造量の増加にともない廃棄物排出量も増加しましたが、ニチバングループのすべての工場で効率的な生産を推し進めることで、限りある資源の有効活用に努めています。なお、2012年に廃棄物の99%以上をリサイクルするゼロエミッションを達成し、現在も維持しています。



■ サーマルリサイクルからリサイクルへの転換

ゴミとして廃棄される資源を燃料として再利用(サーマルリサイクル)するだけでなく、有価物にする取り組みを継続しています。紙や製造工程内で廃棄されるテープの基材に加え、納入される原材料の包装紙についても廃棄物から有価物へと転換し、リサイクルできる物の種類と量を増やして廃棄物の削減に取り組んでいます。



生物多様性保全

■ ニチバン巻心ECOプロジェクトの実施

粘着テープで使われている巻心を再資源化する「ニチバン巻心ECOプロジェクト」を、2010年から実施しています。第12回(期間:2021年9月1日~12月28日)は、全国から学校・企業・病院などの677団体と個人360名にご参加いただき、551,373個(重量換算7,100kg)の巻心を回収することができました。第1回からの累計回収個数は、約477万個以上(累計重量60,589kg)に達しています。

また、障がい者アートの応援活動「パラリンアート®」もサポートしており、障がい者アーティストの作品を本プロジェクトのポスター・感謝状・花の種のデザインに採用しています。



回収した巻心

■ 江の川「森のしずく」保全活動と海外での植樹

江の川「森のしずく」保全活動は2020年5月に第3回の国内植樹を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況と活動に参加する方の健康を考慮し、2020~2022年は中止としました。

なお、第1回と第2回(2018・2019年)で植樹したエリアは、感染予防対策を行いながら環境整備を継続しています。

海外では、環境NGO『イカオ・アコ』が1997年から実施しているフィリピンでのマングローブ植樹・メンテナンス活動を支援しており、ニチバンではこれまでに29万本以上の植樹に協力しています。



フィリピンでのマングローブ植樹(2022年5月実施)

製品の品質向上と安全の確保

■ 品質マネジメントシステムの継続運用と監査の実施

ニチバングループは1996年にISO9001の認証を取得して以降、品質マネジメントシステム(QMS)のもとで日々の管理を徹底するとともに、設計品質、製造品質および顧客満足度の向上に努めています。

社内で実施する内部監査や外部審査機関による審査では、各部署でのQMSの運用状況や有効性を確認し、さらなる改善とパフォーマンスの向上を図っています。

■ 新基幹システムの導入

基幹業務の整理(業務の特徴や形態を見極めた上での構造化・標準化)と、システム・データの統合(構造化・標準化)による戦略的なデータ活用を目指すべく、グローバル標準の統合基幹業務システム(ERP)へと移行を進めています。

2022年4月には国内グループ会社における基幹システムの統合を完了し、グループ全体での安定稼働を確認しています。

■ 社会課題を意識した全社改善活動の推進

当社では毎年、各生産事業所・グループ会社による改善活動推進運営報告および選抜チームの取り組み事例について、全社発表会を開催しています。担当業務の中でテーマを選定し、年間を通じたPDCAサイクルの成功事例を共有することで、全社改善活動を促進しています。

近年は、以前からの改善ポイントである生産効率化や品質向上に加えて、廃棄物の抑制やCO₂削減など、環境課題を意識した活動を推進しています。今後も活発な改善活動を継続し、品質向上とSDGsへの貢献の両立を目指します。

■ 改善活動テーマの一例

- ・塗工歩留向上による廃棄物の削減
- ・基材打抜き工程歩留向上による廃棄物の削減
- ・不具合発生の未然防止に向けた取り組み

労働安全衛生と社員の健康への対応

■ 健康経営®方針の策定

従業員の健康がグループ理念にある「人々の幸せの実現」につながるの認識のもと、2022年に「ニチバングループ健康経営方針」を策定しました。サステナビリティ委員会委員長を責任者とする健康経営推進体制を整備し、右記の行動指針に基づく課題について取り組んでいきます。

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

4つの行動指針

- 1.生活習慣病などの疾病の発生予防・重症化予防
- 2.メンタルヘルス不調などのストレス関連疾患の発生予防
- 3.健康に対する意識向上
- 4.健康経営を推進する環境の整備

■ 従業員の生活習慣病などの疾病の発生予防・重症化予防

ニチバンでは、定期健康診断の受診を全従業員に促すとともに、生活習慣病の予防に向け、メタボリックシンドロームの該当者・予備群を減少させることを目的として特定健診および特定保健指導を実施しています。ニチバン健康保険組合が選定した保健指導のプログラムを、保健指導を必要とする従業員が積極的に受けられるよう環境を整備し、強く参加を呼びかけています。

■ 従業員のメンタルヘルス不調などのストレス関連疾患の発生予防

ニチバンでは年に一度、全従業員を対象としてストレスチェックテストを実施しています。その結果から従業員が自身のところからだの状況を認識し対処することで、メンタルヘルス不調のリスクを減らすとともに、検査結果を集团的に分析し、職場環境の改善につなげることで、メンタルヘルス不調の未然防止に努めています。

また、メンタルヘルスクアとして「セルフケア」「ラインケア」などの4つのケアに関して、対象者を分けて継続的に研修を行っています。

ダイバーシティ推進と人財育成

■ 女性活躍推進

ニチバンでは、働き続ける施策は整備されているため「勤続年数に男女の差はない」が、「管理職比率に男女の差がある」という課題解決に向け、第2期行動計画(2019年4月1日～2024年4月1日)を策定、取り組みを進めています。

ダイバーシティの実現に向けては、全社員が意識や働き方を変えていけるような研修を計画しており、2021年度は、経営層を対象に「ダイバーシティ研修」を実施しました。

また、多様な働き方を可能にするべく、2022年度より「時差勤務制度」「在宅勤務制度」を導入しました。今後も、男女にかかわらず誰もが活躍できる職場を目指していきます。

■ 障がい者雇用の推進

ニチバンでは、障がい者とともに成長していく職場づくりを進めています。テープ安城工場では、障がい者のご家族とのコミュニケーション促進を目的に、仕事内容や職場の様子などを掲載した「ステップ新聞」を発行するとともに、本人がやりがいを持って働くことができる環境整備に取り組んでいます。

また、特別支援学校からのインターンシップ受け入れや、障がい者トライアル雇用などを行い、採用につなげています。

今後も多様な人財が活躍する企業を目指し、障がい者雇用を総合的に推進していきます。

社員の状況(単体)

	単位	2019年度	2020年度	2021年度
従業員数		750	752	743
	男性	557	564	556
	女性	193	188	187
平均年齢(在籍人員)		40.9	41.9	42.4
	男性	41.0	42.2	42.6
	女性	40.4	41.1	41.8
障がい者雇用率*	%	1.99	2.15	2.54
育児休業		24	25	28
	男性	6	7	10
	女性	18	18	18
	復帰率	%	100	100
介護休暇・休業		1	0	1
	男性	0	0	1
	女性	1	0	0
有給休暇取得率	%	55.8	53.0	56.6
再雇用者数	名	21	22	23

※各年6月時点

Voice 育児休業取得者の声

職場の皆さま、また取引先の皆さまにご理解とご協力をいただく中で、無事に育児休業を取得することができました。休業期間中に家族と過ごした時間は、私にとって貴重なものとなりました。ワークライフバランスの実現に向け、周囲の方々が育児休業を取得する際には、今回自分が得た経験をもとに、しっかりとサポートしたいと思います。



工業品営業統括部
西日本営業部 大阪工業品課
大西 剛史

■ 社員エンゲージメント向上・組織マネジメント強化の取り組み推進

各組織が互いに影響し合い、ニチバン全体の成長を促し合える関係性の構築に向けて、エンゲージメント向上プロジェクトを2020年度からスタートしています。メンバーは各職種の中堅、若手を中心に構成され、組織を横断した活動を行っています。年に一度実施するエンゲージメントサーベイの結果から、課題である「会社全体としての一体感」を醸成すべく、組織を超えたコミュニケーションの強化に取り組んでいます。

2022年度からは、新たに各部門のトップ層が委員を務めるエンゲージメント向上委員会を設置し、従来のボトムアップに加え、トップダウンの相乗効果でさらなる職場エンゲージメントの向上に取り組んでいきます。

サプライチェーンマネジメントの強化

■ 購買方針の徹底

ニチバンでは、「購買方針」に則った購買活動を実施しています。購買業務に携わるグループの全従業員に「購買方針」を共有するとともに、公正、公平で透明性を持った取引を行うべく、ホームページに「購買方針」を掲載し、国内外を問わず取引先を募っています。

既存の購買先には、「購買方針」制定の背景を説明して協力を依頼するとともに、現状を把握するための調査を実施しています。調査は直接の購買先だけでなく、購買先の仕入れ先も対象とし、サプライチェーン全体での取り組みを推進しています。

地域・社会への貢献

■ 小学校へのお出前授業による啓蒙活動

2021年度は、「巻心ECOプロジェクト」にご参加いただき、かつ出前授業にご応募いただいた14校の小学校にて出前授業を実施しました。

第10回「巻心ECOプロジェクト」(2019年)からは、「ゼロテープ®」を題材とした授業を行っています。ゴミの分別や環境にやさしい素材、またリサイクル活動の重要性や環境問題などについて授業を行いながら、緑の地球のために何ができるかを児童たちと一緒に考えています。出前授業は毎年1学期中(5～7月中旬)に多くのご依頼をいただき、好評をいただいています。



ニチバン社員による出前授業

Voice 出前授業に参加した社員の声

毎年プロジェクトを担当していますが、講師を務める際はいつも楽しく、その反面で緊張もしています。児童たちと一緒に楽しみ、一緒に考え、「自分たちができる小さな行動・活動」に気づいてもらうことで、ちょっとした行動・活動でも、環境問題を大きく変えることができる可能性があることを、多くの児童に伝えていきたいと思っています。



経営企画室 広報部
梶原 晃久

■ アスレティックトレーナーの育成

「ケガ予防の重要性をさらに普及したい」との思いから、2016年より公益財団法人日本サッカー協会「JFA Youth & Development Programme(JYD)」に参画しています。2019年からは、次世代のアスレティックトレーナー育成を目的とした「SOCCER MEDICAL CAMP」を開始しました。これは、サッカー日本代表のアスレティックトレーナーや日本サッカー界のメディカル領域を代表する講師陣から、受講生へ知識やテーピング実技、考え方を伝えるセミナーです。これまでに約40名が受講し、それぞれの現場で活躍しています。



SOCCER MEDICAL CAMPでのテーピング実技

Voice 育成活動に参加した社員の声

選手を支えるアスレティックトレーナーは重要な仕事です。本プロジェクトを通じて次世代のアスレティックトレーナー育成を行い、将来現場で知識や考え方が広がることで、メディカルの重要性について理解が深まっていくことを期待しています。今後は競技パフォーマンス向上だけでなく、メディカル領域から日常生活を支えていく取り組みを推進していきたいと考えています。



ヘルスケア営業統括部
谷 幸基

医療への貢献

■ 絆創膏や止血製品、ドレッシング材による感染予防への貢献

ニチバンの穿刺部被覆保護用絆創膏「セサブリック™」シリーズは、注射や採血後の被覆保護など、用途に応じた感染予防の製品を取りそろえています。各製品とも滅菌済みで、パッドに触れず衛生的に貼付することができます。

「チューシャバン™」は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を行う医療機関や自治体などで多数採用されています。ワクチン接種需要が拡大した2021年度は、各自治体を中心とした接種会場への安定供給に努めました。

「カテーラープラス™」シリーズは、業界で初めてウレタンジェル粘着剤を採用した透湿性の高いフィルムドレッシング材です。カテーテル関連血流感染における予防対策として、カテーテル挿入部位の定期的な観察と、長期間の安定した固定性が求められています。COVID-19の世界的流行で感染症対策への意識が高まる中、感染予防を必要とする多くの医療現場でご使用いただいています。

ガバナンス

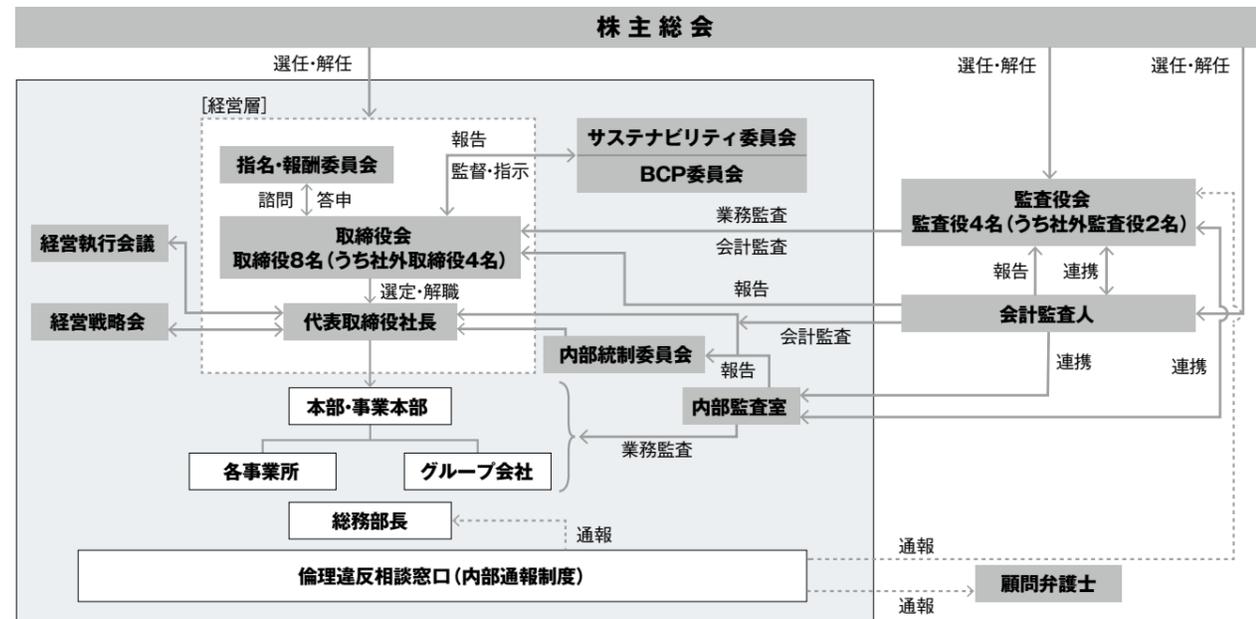
コーポレート・ガバナンス

■ 基本的な考え方

経営体制および内部統制システムを整備・運用し、効率的かつ健全で透明性の高い経営を行い、信頼され期待される企業になるべく、コーポレート・ガバナンスに関する取り組みを進めています。監査役会設置会社を採用して複数名の社外監査役を置

き、グループ経営の職務執行状況の監督・管理を適切に行うとともに、IR活動を通じた財務情報の提供等により、各ステークホルダーとの良好な関係の維持に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制



取締役会

取締役8名(うち社外取締役4名)で構成しています。取締役の効率的な職務執行を確保するための体制の基礎として、月1回および必要に応じて臨時に開催し、定款および社内規定に基づく取締役会付議事項の審議決定のほか、経営重要課題の報告、月次・通期業績報告、中期経営計画の課題進捗、その他各取締役の職務執行における課題の報告と確認を行っています。(2021年度開催回数:15回 出席率:取締役100%、監査役98.3%)

監査役会

監査役会は監査役4名(うち社外監査役2名)で構成し、会計監査人や社長直轄の内部監査室と連携しながら経営状態の監査を実施しています。また監査役は、取締役会その他の重要な会議に出席し、客観的かつ独立した立場で取締役の職務執行について監査を行っています。(2021年度開催回数:15回 出席率:100%)。

指名・報酬委員会

取締役会によって選定された3名以上の取締役で構成し、その過半数は独立社外取締役としています。また委員長は、独立社外取締役である委員の中から選定しています。取締役会の諮問に応じて、取締役および執行役員の選任・解任・解職に関する事項、取締役の報酬限度額に関する事項、取締役および執行役員の個人別の報酬等に関する事項、後継者計画に関する事項について、取締役会への助言・提言を行っています。

■ 取締役会の実効性評価

取締役会は、取締役会全体の実効性について、把握、分析、検証を行っています。2021年度は、全取締役および全監査役に対して、取締役会の構成や運営状況に関するアンケートを行い、その集約結果に基づき、取締役会において審議を行いました。その結果、当社の取締役会の構成、運営状況や審議状況は、取締役会が監督機能を果たす体制としては概ね適切であり、実効性は確保されていると評価しました。今後とも、取締役会議長と取締役会事務局を中心に、取締役会の実効性の向上に取り組んでいきます。

■ 役員報酬「取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針(基本方針)」

企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして機能するよう株主利益と連動したものとし、個々の取締役の報酬決定については各職責をふまえた適正な水準とすることを基本方針としています。業務執行取締役の報酬は、役位・職責および経験に基づく基本報酬と業績連動報酬等で構成されます。業績連動報酬等については1事業年度ごとに支給する賞与(短期インセンティブ)と中期経営計画をふまえた一定の期間に1回支給する

■ 役員向け研修の実績

- 1.ダイバーシティ・経営戦略としての働き方改革研修**
女性活躍を含めた多様な人材登用および活用の促進
- 2.経営人財の多面評価フィードバック研修**
経営人財としてのリーダーシップ、マネジメント力の強化

■ マネジメント体制

取締役

代表取締役社長
高津 敏明
経営全般

専務取締役
酒井 寛規
管理担当(兼)CSR担当

取締役常務執行役員
原 秀昭
営業・開発担当
(兼)国内事業本部長

取締役常務執行役員
高橋 泰彦
経営企画室長

社外取締役
清水 與二
独立役員

社外取締役
石原 達夫
独立役員
[重要な兼職の状況]
スプリング法律事務所 代表弁護士

社外取締役
佐藤 彰紘
独立役員
[重要な兼職の状況]
佐藤総合法律事務所 代表弁護士

社外取締役
真田 弘美
独立役員
[重要な兼職の状況]
石川県立看護大学 学長

監査役

常勤監査役
高橋 一徳

常勤監査役
富岡 和彦

社外監査役
児玉 安司
[重要な兼職の状況]
新星総合法律事務所 代表弁護士

社外監査役
福田 厚
[重要な兼職の状況]
株式会社三陽商会 社外監査役

■ 内部統制システムの整備

取締役会において決議した「内部統制システム整備に関する基本的方針」に基づき、ニチバングループの内部統制システムを整備することにより、業務の適正を確保するとともに、財務報告をはじめとするさまざまな情報の信頼性を確保することで「確固たる企業価値の確立」に努めています。

■ 内部統制委員会

コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス等、内部統制につき統括する会議体として内部統制委員会を設置しています。社長を委員長として、半期に一回内部統制に関する重要事項および改善事項の確認、適時開示や全社リスクマネジメントに関する審議を行い、内部統制システムの強化および改善に取り組んでいます。

コンプライアンス

■ 考え方

コンプライアンス・マインドを全社員で共有するために、「ニチバングループの倫理」を定めています。

■ ニチバングループの倫理

[基本方針]

私たちは、「企業は社会の公器」であることを認識し、行動指針に基づく活動を通じて、社会的責任を果たしてまいります。

[行動指針]

1.法令等の遵守

私たちは、法を守り社会規範に従い、公正で透明な企業活動を行います。

2.有用・安全・安心な製品の提供

私たちは、「品質・安全・環境への最大限の配慮」を第一義とし、当社製品を通じ「顧客満足の上昇をはかる」ことにより、お客さまからの信頼を高め、社会に貢献します。

3.反社会的行為への断固たる対応

私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的行為には、毅然として対応します。

4.情報管理と開示の徹底

私たちは、ニチバンにかかわる全ての情報の適正な管理・保護ならびに企業情報の適時・適切な開示を行います。

5.当社倫理の徹底

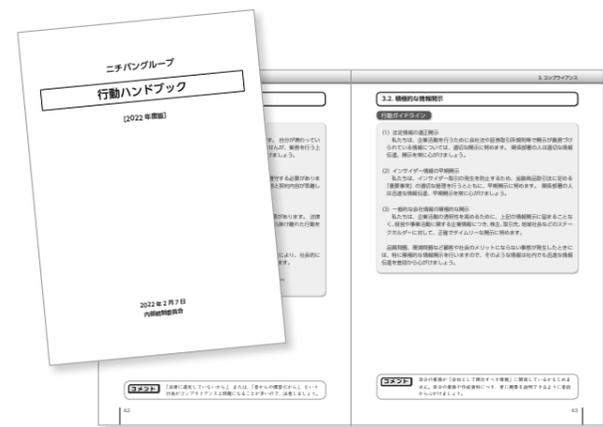
経営者は、この「ニチバングループの倫理」の精神に則り、率先垂範で社内体制を整備し広く周知徹底します。

■ コンプライアンスの浸透

「ニチバングループの倫理」実践のための具体的な手引きとして「ニチバングループ行動ハンドブック」を作成し、グループ全社員に配布しています。「ニチバングループ行動ハンドブック」は年に1回見直しを行い、社会情勢や関係法令の変化に随時対応す

るとともに、教育研修や会議の中で周知徹底を図っています。

また、従業員が時や場所を選ばずに受講することができる、各種コンプライアンスに関するEラーニングプログラムを提供し、コンプライアンスの浸透を図っています。



ニチバングループ行動ハンドブック

■ 内部通報窓口の充実

「倫理違反相談窓口」と「ハラスメント相談窓口」の2つの相談窓口を設置しています。「倫理違反相談窓口」は、総務部長・監査役および社外の顧問弁護士を従事者とし、コンプライアンスに関する相談全般の窓口として、法令等の違反やそのおそれの

ある事実の早期発見に努めています。「ハラスメント相談窓口」は、拠点ごとに担当窓口を設置し、より相談しやすい体制を整備しています。また、ハラスメントへの理解を深めるため、相談窓口担当者の対応力向上のための教育研修を実施しています。

■ Eラーニングによるコンプライアンス研修一覧

- ・産業廃棄物の適正処理を学ぶ
- ・リスクマネジメント
- ・最新事例で学ぶ 個人情報保護対応
- ・食の安心・安全を守るコンプライアンス 食品表示偽装編
- ・組織風土を考える 企業倫理・コンプライアンス
- ・インサイダー取引規制
- ・下請法入門
- ・景品表示法入門
- ・知財入門 著作権、営業秘密、商標、商号編
- ・独占禁止法入門
- ・消費者トラブルを未然に防ぐ 特定商取引入門

リスクマネジメント

■ 基本方針

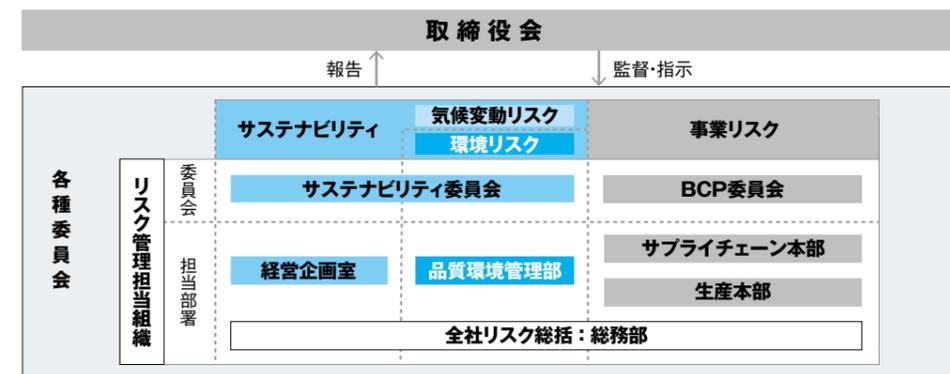
事業の継続を危うくする重大な危機に対して、事前に予測・予防措置を実行し、万一発生した場合には被害を最小限に抑え、再発防止措置をとることで、危機を適切に管理し、事業の継続・安定的発展を確保しています。

■ リスクマネジメント体制

総務部が全社的に管理すべきリスクを取りまとめるほか、気候変動リスクや環境リスクについてはCSR担当取締役を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置し、その分析・検討内容を

取締役会に報告しています。また、事業継続に関するリスクについては、サプライチェーン本部長を委員長とする「BCP委員会」を設置しています。

リスクマネジメント体制図



■ 緊急時対応訓練の実施

従業員および関係者の生命・身体に危害を及ぼすような緊急事態、または企業活動に大きな障害もしくは影響を及ぼすような緊急事態が生じた場合に、迅速・的確な意思決定に基づき対応できるよう、「緊急時対応規則」を定めています。具体的な災害発生を想定した訓練として、従業員や社有財産への被害、

当社事業所周辺地域の安全、環境への影響を最小化するべく、全社および事業所に緊急対策本部を設置・運用する「全社緊急対策本部設置訓練」を年1回開催しています。その他、安否確認システムや災害用無線を使用した緊急時対応訓練も実施しています。

■ BCPによる安定供給体制の整備

「ニチバングループBCP基本方針」および「BCP規則」には、災害発生時と事業復旧・継続時の各段階でとるべき行動や対応策の指針を定めています。昨今の気候変動や地政学リスクの高まりを受け、原材料メーカーのマッピング、特殊原料・レア原料

の調達リスク調査、TCFDシナリオ分析でのリスクへの対応など、サプライチェーン全体にわたるリスクをBCP委員会にて検討し、製品の供給責任を果たすための対策に注力しています。

情報セキュリティ

■ IT統制の整備

IT(情報技術)は事業戦略に欠かせないものとなっており、ITによって実現される情報システムの巧拙が経営に大きな影響を及ぼすようになってきました。IT統制を整備し運用することで、IT戦略、開発および運用に関わる適切な自己診断と監査実践を可能にし、情

報システムにまつわるリスクを適切にコントロールしながら、ニチバングループ全体のITガバナンスを強化しています。グループIT連絡会を設置し、グループ会社間で情報共有を行うとともに、各社の独自システムの運用状況を確認しています。

ビジネスイノベーション

イノベーション創出

■ スタートアップ企業の協働プログラム推進

中期経営計画【ISHIZUE 2023 ～SHINKA・変革～】では、「イノベーション創出」を特に重視するテーマに掲げています。2022年度より、国内外のスタートアップ企業と豊富なネットワークを有するPlug and Play Japan株式会社のエコシステム・パートナーとして、コンソーシアム型アクセラレータープログラムに参加し、スタートアップ企業や大手企業パートナーとのN対Nの協働機会の探索を開始しました。

新たな価値創造につながる先端テクノロジーや、革新的なビジネスモデルを持つスタートアップ企業との連携、協業により、新規事業の創出を目指します。

Voice

アクセラレータープログラムは、7部署10名のメンバーで、ニチバンの理念から落とし込んだ「実現したいこと」を軸に、新規事業創出に向けて複数のスタートアップ企業との協働案を模索しています。ニチバンにない視点で事業を捉えているスタートアップ企業が多く、たくさんの刺激をもらっています。このプログラムから、ニチバンの未来を担う新製品や新規事業創出ができるよう取り組んでいきます。



イノベーションセンター
岡田 真起

■ グループ社内提案制度の活用

ニチバングループ社内提案制度は「顧客目線開発」「社員エンゲージメント向上」を目指して大幅な改善を行い、2020年11月に「NBrain(エヌブレイン)」として再スタートしました。NBrainは、ワークフローシステムから提案を行う「製品提案」と、社内SNSを活用した意見交換の場である「idea farm」で構成されています。2021年度は173件の提案があり、製品化候補となる「推進検討」2件、アイデア蓄積対象の「ストック」26件が表彰されました。NBrain発の新製品はまだ実現していませんが、全従業員の開発意識を高めるだけでなく、制度を通じた活発な意見交換により、知識・知恵の交流にも貢献しています。

グローバル市場へのスピーディーな展開・拡大

■ 海外3拠点体制による新規創出の取り組み

日本、タイ、ドイツの営業3拠点で、新規創出活動を推進しました。日本管轄の韓国では、現地代理店とともに高機能絆創膏「CARELEAVES™」の取扱店増加に取り組み、傷をやさしく保護する絆創膏の普及に努めました。

NICHIBAN (THAILAND) CO., LTD. (タイ)においては、コロナ禍で感染対策への意識が高まる中、衛生的に貼付できる止血絆創膏「CESABLIC™」の告知を進め、タイのワクチン接種会場にて採用いただきました。

また、天然由来の素材を使用した「Panfix™ CT」(海外向けセロハン粘着テープ)を通じたSDGsへの貢献を世界に広げべく、3拠点それぞれにおいて、「Panfix™ CT」採用によるCO₂削減を訴求しました。2022年度も世界のサステナビリティに貢献すべく、ニチバン製品の普及を進めていきます。

■ パートナーとの協働活動強化

海外重点地域における成長実現のため、戦略的パートナーとの協働による活動を推進しています。

韓国では、現地代理店との協働による薬店への「ケアリーヴ™」新規配荷の取り組みにより、救急絆創膏群が大きく伸びました。

NICHIBAN EUROPE GmbH (ドイツ)は会社設立1周年を迎え、販売拡大に向け本格的に始動しています。

NICHIBAN (THAILAND) CO., LTD. (タイ)でも、新規代理店探索による病院向け製品のタイ国内拡大と、各拠点におけるさらなる成長に向けた取り組みが着実に進んでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響により活動が大きく制限される中、パートナーとの協働強化により、販売目標を大きく上回る成果を残すことができました。

会社情報 / 株式情報 (2022年3月31日現在)

会社概要

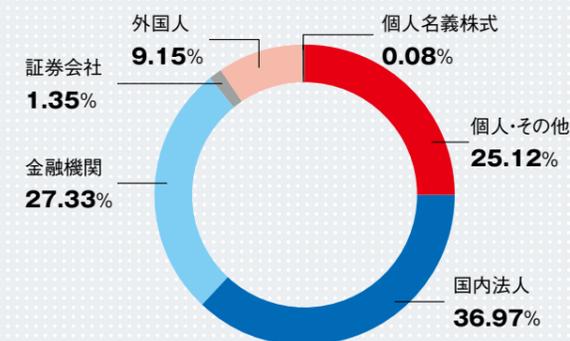
商号 ニチバン株式会社
創業 1918年(大正7年)1月
本社所在地 〒112-8663
 東京都文京区関口二丁目3番3号
 TEL.03-5978-5601
代表者 代表取締役社長 高津 敏明
資本金 5,451百万円
売上高 43,134百万円(連結)

従業員数 1,255名(連結)
グループ会社 ニチバンプリント株式会社
 ニチバンテクノ株式会社
 ニチバンメディカル株式会社
 NICHIBAN (THAILAND) CO., LTD.
 NICHIBAN EUROPE GmbH
関連会社 UNION THAI-NICHIBAN CO., LTD.
 大東化工株式会社
 株式会社飯洋化工

株式の状況

発行可能株式総数 70,000,000株
発行済株式の総数 20,738,006株
株主数 13,136名

所有者別株式分布状況

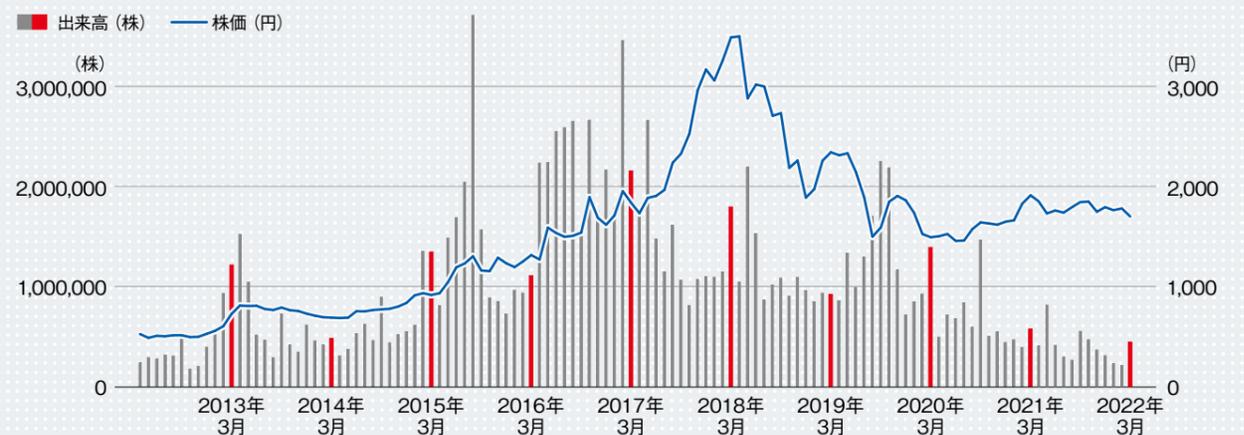


大株主

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
大鵬薬品工業株式会社	6,758	32.61
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,337	6.46
ニチバン取引先持株会	1,174	5.67
株式会社三菱UFJ銀行	1,034	4.99
株式会社みずほ銀行	1,034	4.99
あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社	540	2.61
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	355	1.72
株式会社りそな銀行	288	1.39
Northern Trust Co.(AVFC)Sub a/c USL Non-Treaty	286	1.38
第一生命保険株式会社	277	1.34

(注)1.持株比率は自己株式(16,847株)を控除して計算しております。
 2.株主名は、2022年3月31日時点での登録名称を表記しております。

株価および出来高の推移



※ 2017年10月1日付けで普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しています。株式併合以前の株価は、株式併合後の値に調整しています。

2021年度 事業ハイライト

2021年

5月 新製品

店頭でのお買い上げ済み用シールなどにご使用いただける「ストアテープ(大巻)」を「セロテープ®ストアテープ」としてリニューアル。新たなデザインとして、「花」と「簡易包装 森の湖畔」をラインアップ

新製品

店頭でのお買い上げ済みシールや包装、封筒などの封かんにご使用いただける「セロテープ®No.450(規格印刷)」に、新デザイン2種をラインアップ

6月 企業活動

天然素材でつくられる「セロテープ®」を通じて環境問題をともに考え、行動を紹介する特設webページ『セロテープ®でSDGsに貢献』開設

7月 企業活動

新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化と健康状況に関する調査レポートを公表(20代から60代の男女500名を対象に実施)

8月 新製品

外壁塗装時のマスキング作業にご使用いただける「建築塗装用マスキングテープ No.255G」を、従来品に比べ水に濡れても糊が残りにくいテープへとリニューアル

企業活動

生活様式の変化により増加している体調不調(自粛痛)とコロナ禍の睡眠不調に関する調査レポートを公表(20代から60代の男女500名を対象に実施)

9月 企業活動

「第12回 ニチバン巻心ECOプロジェクト」をスタート

企業活動

特定非営利活動法人 deleteCが、がん治療研究応援啓発の強化月間として実施している「#deleteC 大作戦」に、賛同企業として参加

企業活動

スポーツ障害予防を目的としたテーピングを中心に、専門家と一緒に巻き方を習得する「2021年度 ニチバン バトルウィン™ テーピングセミナー」をオンラインにて開催

企業活動

公益財団法人日本サッカー協会とともに、サッカーアスレティックトレーナーを目指す方を対象とした育成プロジェクト「SOCCER MEDICAL CAMP」開催

新製品

透明プラスチックの接合・固定にご使用いただける「ナイスタック™ 透明プラスチック用 大巻」発売

新製品

ぶどうの新梢やきゅうりの蔓の誘引結束システム「とめたつ™」シリーズから、作業性・使いやすさが向上した誘引結束機「とめたつ™ プラス TMA150」発売

新製品

パンや青果の袋詰めにご使用いただける、手でちぎりやすく開けやすい「バッグシーリングテープ和紙 No.270」発売

12月 企業活動

「セロテープ®」による環境貢献を訴求した新聞広告が、「第50回 日経MJ広告賞(主催:日本経済新聞社)」にて最優秀賞を受賞

2022年

1月 新製品

「セロテープ®大巻 ハンドカッター」を、「セロテープ®大巻 ハンドカッター(まっすぐ切れるタイプ)」へとリニューアル

2月 新製品

医療施設向け製品として、ウイルス除去除菌スプレー「バリアサーティ™」発売

新製品

お客さまからのご要望を受け、持ち運びや少量使いに便利な「ナイスタック™ 透明プラスチック用 小巻」発売

3月 新製品

ハードなスポーツシーン・軽スポーツ・日常生活においても、ケガの予防や痛みの軽減に役立つ強粘着タイプの「バトルウィン™ キネシオロジーテープ 強粘着」発売

ニチバン株式会社

〒112-8663 東京都文京区関口二丁目3番3号
TEL. 03-5978-5601 FAX. 03-5978-5620
<https://www.nichiban.co.jp/>

ご意見・ご質問は、下記までお願いいたします。

経営企画室 広報部

TEL. 03-6386-7190 FAX. 03-6386-7191

®: registered trademark
™: trademark

